

林惱煩遊

秋のお彼岸 法要

左記のとおり秋季彼岸会総供養法要をお勤めいたします。

この度の法要は時節柄二十五名定員とし、事前予約制といたします。

九月二十六日(日)
午前十一時半より

*衆僧総供養読経

*九月二十日から二十六日までお彼岸です。この期間お寺もしくはご自宅での読経供養を致します。ご希望の方は必ずご予約ください。

*新型コロナウイルスの影響により密を避けるため期間中お寺、ご自宅での読経供養はすべて予約制といたします。必ず電話予約下さい。

*お寺にご遺骨をお預けの方は期間中なるべくお参り下さい

予約電話

午前九時から午後五時まで

03-3996-2064

それ以外の時間

080-5464-9136

浄土真宗と言えば「他力本願」なのである。私のすべてが「他力」に依る、言い換えれば「縁」に依る。すべて「本願」に任せるということです。

昔から言われる「社会貢献」てのがありますが、人間は面白いもので、若い起業家なんかがそういう志を持って少しでも社会の役に立てればと頑張っていらいっしやるのを耳にする。一方で自分さえよければと金儲けに邁進する人や自己の欲求満たすために悪事を働く人もいる。この違いは何処から出てくるのでしょうか。仏教的に言えば全て「他力」ですからその人の生まれ持つ「縁」によると成ります。

私たちの身近な関心事で言い換えると多分「幸」「不幸」の方が解りやすいかもしれません。「社会貢献」を考える人は「幸せ」は自分を成り立たせる環境全般が「幸せ」になることによつて自分も「幸せ」になると考えるのではないのでしょうか。一方「幸せ」は自分の快樂がすべてで他人や社会が「不幸」でも関係ないと思つている人もいます。只これも白黒はつきりした両極端という事ではなく、「社会」と言つても私たちは自分の半径5メートルでしか見られない考えられないのが実情ですし、国連が提唱した「SDGs」(持続可能な開発目標)を新たな金儲けの手段として見かけだけ標榜する会社も多く見られます。反面、その存在の是非はともかく暴力

団が毎朝近所の清掃したり、ハロウィンに子供にお菓子配ったり、災害時に真っ先に救援物資を配りに行ったりと見た目、社会貢献したりします。

このような白黒はつきりしない俗に言う「グレイゾーン」のような感じはこの日本に限らず長く歴史を持つヨーロッパ、アジア、アフリカ、南米、やはり清濁曖昧な感じです。そう考えると程度の差はあっても人間てそんなものかもしれないですね。「縁」の中でその時その時、判断しそれを自分としては最善として行動していくしかないのでしょうか。しかし、その判断や行動も基本となるもの無しにすれば環境の大きな流れに翻弄され不安を抱えます。

阿弥陀さんの「本願」は生きとし生ける全てを救い安楽にするという願いです。この「本願」は一人でも不幸な者がいたら成就しません。阿弥陀さん自身も不幸であり続けるということですが。しかしあまりに壮大な願いなので私にはピンとこないで長年困っていました。で、どうせ半径5メートルならそこで考え始めればいいじゃないかと罰当たり。先だった親や今そばにいてくれる家族がこの私に「本当に何を願っているか」それを見つけ、それを錨として不安の激流に降ろせば不安定でも流されないのでは、そこから次の一漕ぎを始めようと。まあ言うのは簡単、行うのは難しいけどね。

心の仕事
任職

人は正しく歌えない
無を語る言葉はなく
すべてを語る言葉もない

谷川俊太郎さんの「野にて」という詩の一節です。
実は、無を語る、すべてを語る言葉があります。

「南無阿弥陀仏」です。

「なむあみだぶつ」は「不思議光如来」「無量寿如来」
とも呼ばれます。

で、簡単に言いますと、わからない理解不能な働きに
お任せする、という言葉なのです。成るように成っている
今を大事と受け止めていく、他力絶対の世界です。

私たちの生活、環境は、わからないことで満たされて
います。この新型コロナ禍にしても、今夏の水害にしても、
これまで人間が科学や医学や哲学や宗教で解明しようとし
てきた数限りない人間にとって都合の悪い事象で満たされ
ています。でも、その人間にとって都合の悪い事象も全て
当たり前であり、それを当たり前と受け止められない、解
明して当たり前でなくそうとする、人間のいわば傲慢が自
らを追いつめていると言えるのでしよう。医学が進歩すれ
ばするほど、人間は「生」のみに執着し、「死」を厭い、
ありえなことで受け止め、死というものを覆い隠すように
なってきました。そうした人間の心の働きは医療だけでは
なく生活にも現れてきています。人間優先、人間のための
環境という傲慢な思想は、臭いものには蓋をする、汚いも
のは覆い隠して見えないようにする、上位者は下位者の言

葉を聞くこともなくスルーする、都合の悪い事実や事象は
なかったことにできる、そうした弱者排斥思想へといざな
ってきました。傲慢を問い、見つめ直さねばなりません。

人間は根本的に矛盾した生き物です。老いる、病む、
死ぬという当たり前を厭い、覆い隠そうとする、「悪」と
する、非常に矛盾した物分りの悪い生物です。人間にとつ
ての当たり前（息をする、鼓動する、いまここにある）は
当たり前ではなく量りしれない、わかりようもない大事で
あり、当たり前でない事象（老病死や自然災害）は当たり
前のことである。そうした観点から生活や環境社会を問い
直す必要を感じます。

人はわからないものをどうにか探り合わせるために「コ
トバ」を作り出しました。ところがその言葉はいつしか刃
となり他者を傷つける、互いの我をぶつけあう道具となっ
ていきます。それでも、人間は、言葉を、知恵を、科学や医
療を棄てることはできません。だからこそ必要なのは、問
い続けることです。互いに問い、自らを問い、聞き続ける
ことだけが唯一のまともな社会を作る方法だと思うのです。
たとえ99%の人が救われたとしても、たった一人の人が
涙していたら、その社会には何処か不具合があるのです。

南無阿弥陀仏は、一切衆生を過去現在未来を通して、
何処にしようとも救い、いっしょに要られる世界を作りま
した。それが浄土です。一切衆生を救うって？人間的に言
えば「誰ひとり取り残さない社会」って？お彼岸で「南無
阿弥陀仏」と手を合わせ、答えてでない理解不能な問を仏
さまから出題してもらいましょう。

副住職

*夏は暑くてやる気が起きない、冬は寒くて動きたくない。実に怠惰である。記憶がいい加減だからなんです。10年ぐらい前までは気持ちの良い春や初夏、涼しい秋や物思いに耽りやすい初冬があったような気がするが。それもこれも気候変動のせいで幻になった。スーパーコンピューターのシミュレーションではほぼ人為的な現象だという。だからと言って今すぐ何か行動できるかと言うと暑くて考えるのもかたつた。でも、寺報やラヂオやYouTube配信の為に考えざるを得ない。ありがたいことである。やっぱ「他力」だね。

*「自民党をぶっ壊す」の小泉政権以来日本社会の劣化が止まらない。特に小泉の尻ぬぐいをやめた第二次安倍政権以来、人間が社会が著しく劣化している。ずるしてでもカネと権力握っちゃた方がもつとずるできるし得だよねと言う考え方は私は好きになれない。やっぱ社会をデザインし直すしかない様な気がする。皆さんも一緒に考えましょう。面倒くさいけど面白いですよ。 合掌 住職

今東京では火葬場が不足しています。皆さんご経験のとおり通夜葬儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまいます。また土曜、日曜に行われる一日葬が増え、その為ご法事の時間のお約束を頂いていても変更をお願いすることがあります。葬儀をお勤めすることはそのお家の方にとって一生の一大事です。そこは相身互い、どうかご寛恕下さいますようお願い致します

定例行事

いずれもご自由にご参加下さい

聞法会

毎月2日夜7時から、「御文」のお話、座談会をやっています（1月、8月はお休み）2時間ほど

グリーンケアの集い「微妙音」

八月お休み

毎月5日午後2時より2時間ほど

白色白光の会

（婦人会）毎月第2木曜午後1時

お経（正信偈）の練習と法話と茶話会

仏像なぞり書き、塗り絵「仏像描くぞう」

毎月、第2月曜午後3時と月の最終日曜日午後3時から1時間 参加費二百円（初回のみ別途テキスト代千円）

照久山 順正寺 東京都練馬区石神井町三十七・四

お問い合わせ。午前9時から午後5時までは

03-3999612064

それ以外の時間緊急の場合

080-5464-9136